2008年度 第86回 関西学生サッカーリーグ（後期・第３節）

１０／４（土）　阪南大学（高見の里Ｇ）

第１試合　立命大　vs　大院大

立命大　0 { 0－0 / 0－0 } 0　大院大

「勝ちたかった。前半決定的なのが2本あったんや。入っとったら展開変わったんやけど･･･」残念そうな大院大･藤原監督。「ふわーっと入った。すべてが遅かった」と立ち上がりの悪さとスピードアップできなかった攻撃を悔やんだ立命大･米田監督。7位立命大と10位大院大の対戦はともに満足できない勝ち点1を積み上げただけに終わった。
ケガ人が多く台所の苦しい大院大が守備意識を高く戦う中、「最初から相手のペースで試合が進み、なかなか中盤も作れなかった」という立命大MF⑩山口卓也の言葉通り、シュートで終われない立命大。53 四ケ浦寛康と 60 小野真国の大院大1年生2トップが仕掛けるカウンターにヒヤリとする場面もしばしば。
「ハーフタイムで修正できた部分もあった」と山口が振り返ったように立命大はMF⑭内田昴輔からの左右ワイドへの展開がスムーズになるが、大院大はCB⑨岡村和哉④吉井直人のコンビを中心に集中力を切らさず、決定的な場面を作らせない。攻め合いながらもともに試合を支配するには至らず、終盤はともに足が止まってしまう。選手交代でもリズムは変わらず、結局スコアレスドロー。ともに無失点だけが収穫といえた。

（文：サッカーライター　貞永　晃二）

第２試合　姫獨大　vs　京産大

姫獨大　0 { 0－2 / 0－2 } 4　京産大

得点（アシスト）者
12分　16 小笠原
29分　6 市川
50分　8 櫛田
75分　19 足立（8 櫛田）

「いいシュート打つね。最終ラインもよくなった」「中盤がしっかりボールをとれます」「うん、ボール際が強くなった」、これは試合後の姫獨大･昌子、京産大･古井両監督のやりとりである。
1部初昇格ながら前期6位という大健闘の姫獨大だが、後期は桃山大･立命大に連敗という苦しいスタート。加えてこの試合は攻守の中心④渡邉と⑩沈を警告累積で欠く。一方、前期11位に沈んだ京産大の後期は対照的で、優勝を争う阪南大･関西大を連破し上げ潮に乗っている。
試合は、現在のチーム状況そのままに京産大が一方的なものにした。まず12分、FW　16 小笠原侑生のロングシュートで先制。追いかける姫獨大だが、ビルドアップでイージーなミスが目立ち、逆に京産大のカウンターを浴びる。そして29分、京産大はDF⑥市川恭平がFKを直接決めて点差を広げる。
後半も京産大がペースを手放さず、50分にMF⑧櫛田一斗が豪快なミドルを、75分には櫛田一斗のパスからFW⑲足立達哉が決めてついに4点目。古井監督曰く「サッカー人生の中で一番走ったはず」という夏の250キロの走り込みでつかんだ自信を京産大は結果に見事に結びつけているようだ。

（文：サッカーライター　貞永　晃二）

１０／５（日）　大阪長居第２陸上競技場

第１試合　関西大　vs　桃山大

関西大　1 { 1－0 / 0－1 } 1　桃山大

得点（アシスト）者
16分　14 中村（24 藤澤）

得点（アシスト）者
62分　75 高橋（29 斉藤）

好スタートを切った桃山大、V、インカレを狙うには星を落とせない関西大。予想通りシノギをけずる競り合いの末引き分けた。
出だしは関西大ペース。中盤の要･大屋（出場停止）を欠いたが、マイナス面は感じさせなかった。前半16分、関西大は、それまでチャンスの導火点になりつつあったMF藤澤が、桃山大DFラインを突破して左に展開、MF中村のシュートを実らせた。早々と先制した後も“つなぐ”意識で桃山大DFを押し込んだ。が、追加点に結び付けられなかったことが悔いになった。もっとも桃山大はここという場面では好守備を見せた。
桃山大はDFラインが関西大の攻めを的確な判断で寸断、つぶす中で攻撃陣が徐々に本来の持ち味を取り戻し始め、互角の戦勢に持ち込んだ。一進一退の攻防の中、桃山大は後半17分追いついた。前がかりになり勝ちだった関西大DFのウラにロングパス一発、FW斎藤がさばいて、途中出場の1年生FW高橋が決めた。ゲームはドローに終わったが、両校とも調子は昇り調子である。

（文：関西学連）

第２試合　阪南大　vs　近畿大

阪南大　1 { 1－0 / 0－0 } 0　近畿大

得点（アシスト）者
23分　7 小寺

勝ったが、圧倒的なゲーム内容にも関わらず1－0に、須佐徹太郎監督は試合後も苦虫をかんだような表情を崩さなかった。スタートから阪南大は近畿大を圧倒した。右サイドのFW木原がチャンスメーカーに再三再四、近畿大ゴールをピンチに追い込んだ。しかし、シュートがことごとく外れた。トラの子の1点は、前半23分、右から切れ込んだFW木原がシュート、GK高石のパンチボールをMF小寺が叩き込んだもの。
この1点でリズムを取り戻すかと思えた阪南大だが、以後も得点にまでいたらず、後半半ばからはすっかり勢いがなくなってシリすぼみになった。V候補一番手の阪南大には大きな反省点だろう。
「これだけ故障者が多くては。1年生を使わざるを得ない。どうなるか」ゲーム前の近畿大･田中監督の嘆き。FW平石、CB小倉と攻守の軸をはじめ主力5人がケガ、FW小笠原の復帰がわずかな朗報という近畿大だったが、初ゲームのDF桂田、途中出場のFW皿谷ら1年生は合格点。敗れはしたものの阪南大相手に1失点、は大きな財産になるし、次へのステップ台になる。

（文：関西学連）

Result

JUFA Kansai

１０／５（日）　山城総合運動公園太陽が丘球技場Ｂ

第１試合　関学大　vs　同　大

インカレの切符をかけ、4位と5位の接戦。関学大は2連勝しているだけに、この勢いで同大を突き放したいところ。
勝機は突然訪れた。決めたのは、この日も関学大FW⑪桑原透記。関学大の守護神・GK①原田和明のゴールキックにあわせて相手守備陣の裏へ飛び出し、同大のGKをかわしてゴール。 スピードで勝負する両者は、雨と整っていないグラウンドに苦しんでいたが、前半の終わりという良い時間帯に関学がチャンスをものにした。なんとしても連敗は避けたい同大は、後半になるとワンタッチでパスをつなぎ、攻撃を展開。後半19分にはFW⑨松田直樹が出したパスをフリーで中央に待っていたFW 35 松田純也が決め、同点に追いつく。一気に逆転を狙いた同大であったが、追加点を奪ったのは関学大。ペナルティエリアでクリアボールがこぼれたところを「自信がある」というFW⑨金尾和泰のボレーシュートがゴールネットへと突き刺さり、2－1で関学大に軍配が上がった。

（文：フリーライター　久住 真穂）

関学大　2 { 1－0 / 1－1 } 1　同　大

得点（アシスト）者
41分　11 桑原（1 原田）
70分　9 金尾

得点（アシスト）者
64分　35 松田（9 松田）

第２試合　びわこ大　vs　大教大

びわこ大　3 { 0－0 / 3－0 } 0　大教大

得点（アシスト）者
78分　5 内野（16 山田・13 平野）
83分　13 平野（29 安本）
89分　28 澤西（29 安本）

雨が降りしきる中行われた首位と最下位の戦い。「研究されてきた」と松田保監督がいうように、前半は大教大がびわこ大の攻撃陣を抑え、決定的なチャンスを作らせなかった。しかし、びわこ大はMF 34 浅津知大のマークが薄く、サイドから積極的に攻撃を仕掛けた。両者一歩譲らぬ展開で迎えた後半だったが、大教大は不用意な退場者を出したことが勝負の分かれ目となった。33分、DF⑤内野貴志がDF⑯山田尚幸のクロスを頭で決め、びわこ大に待望の先制点が生まれた。
勝つためにはゴールがほしい大教大だったが、退場者を出したことでFW⑨森原慎之祐のワントップとなり、攻撃が手薄になってしまった。そして5分後には、大教大・入口豊監督も警戒していたFW⑬平野甲斐が中央突破し、3試合連続となる得点を決めた。さらにロスタイムには交代で入ったFW 28 澤西宏典が追加点を決め、終わってみれば、3－0とびわこ大の圧勝。
先制点を挙げた内野は「押し込まれていたので、最後はシュートで終わりたかった。」と話す。その若きディフェンスのリーダーが気をつけているは守備のバランス。常に3枚残し、守備を強化したことで後期はまだ無失点。首位を走るびわこ大は、安定した力を付けてきた。

（文：フリーライター　久住 真穂）

～第３節の風景～
後期好調びわこ大！ 次もこの笑顔が見られるか！！

１０月５日（日）太陽が丘Ｂ（びわこ大ー大教大）
■ 撮影：フリーライター　久住 真穂 ■